

平成24年度第1回千葉市病院運営委員会議事録

1 日 時 平成25年2月4日（月）午後7時から午後8時30分まで

2 場 所 千葉市総合保健医療センター5階大会議室

3 出席者

(1) 委 員 入江康文委員、齋藤博明委員、齋藤文平委員、藤本俊男委員、古山陽一委員、山木まさ委員、宮崎勝委員、増田政久委員、小林繁樹委員、木田達蔵委員、吉田由枝委員

(2) 事務局 守屋病院事業管理者

[病院局 経営管理部]

松山経営管理部長、肥川経営企画課長、古川管理課長、伊藤総括主幹、長峯管理課長補佐

[病院局 市立青葉病院]

田中院長、寺野副院長、岩崎診療局長、千田看護部長、大塚事務長

[病院局 市立海浜病院]

太枝院長、宇津木副院長、金澤診療局長、志村薬剤部長、今野看護部長、勝山事務長、加藤医事室長

[保健福祉局健康部]

山口健康部長、豊田健康企画課長

(3) 傍聴者 1名

4 議 題

(1) 委員長・副委員長の選出

(2) 平成23年度病院事業報告について

(3) 「千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

(4) 「新千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

(5) 平成25年度病院事業予算要求の概要について

(6) その他

5 議事の概要

(1) 委員長・副委員長の選出について

委員の互選によって、委員長は入江委員、副委員長は宮崎委員となった。

(2) 平成23年度病院事業報告について

事務局から、平成23年度の両市立病院の事業概要について説明。引き続き質疑応答を行った。

(3) 「千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

事務局から、両市立病院の平成23年度の実績を、主にプランとの対比で説明。引き続き質疑応答を行った。

(4) 「新千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

事務局から、両市立病院の平成24年度の実績見込みを、主にプランとの対比で説明。引き続き質疑応答を行った。

(5) 平成25年度病院事業予算要求の概要について

事務局から、平成25年度予算要求の状況（収益的収支、資本的収支）、主要事業等について説明した。

(6) その他

事務局から、1月19日に行った地域医療シンポジウムの報告、および2月16日に開催予定の第2回シンポジウムの案内を行った。

6 会議経過

事務局から、今年度から「公募による市民」を委員に加えた経緯について説明を行ったのち、議事に入った。

議題（1）委員長及び副委員長の選出について

委員から、前回の委員会では、委員長は入江委員、副委員長は宮崎委員であったので、前回同様両委員にお願いしてはという提案があり賛同を得たことから、提案どおり両委員が就任することとなった。

<入江委員長挨拶>

今回から（席の配置が）委員と事務局との距離も近くなり、非常に良いことである。また、集中して中身のある審議を行うため、1時間半で終了するよう事務局には簡潔な説明をお願いしたい。

<宮崎副委員長挨拶>

私は大学病院の立場からであるが、市立病院の経営に対して各委員から意見を述べていただき、有意義な審議会となるようにしていきたい。

議題（２）平成２３年度病院事業報告について

【質疑応答】

<副委員長>

事業報告のなかに病床稼働率の記載がないのはなぜか。

<事務局>

病床稼働率や診療単価等の各種指標については、「議題（３）千葉市立病院改革プランの進捗状況について」のなかで報告する。

<副委員長>

青葉病院の平均在院日数が短縮しているのは評価できる。平均在院日数の短縮の一方で、平均入院患者数が増加している主因は何か。

<事務局>

救急医療に力を入れた結果、救急患者が入院する絶対数が増加したことなどにより、入院数の増加につながっている。

議題（３）「千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

【質疑応答】

<委員>

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の品目数比率は記載してあるが、購入額比率の状況はどうか。

<事務局>

平成２３年度実績では、青葉病院は約８億円の購入額中、約９千７百万円がジェネリック医薬品であり、比率は１２．２％程度である。海浜病院は約４億９千万円の購入額中、約６千３百万円がジェネリック医薬品で、比率は１２．８％程度となっている。

<委員>

国立病院機構全体でもジェネリック医薬品の導入目標があるが、なかなか目標に到達していないのが現状である。

<委員>

国が掲げる今年度の導入目標は、数量ベースで３０％である。

<副委員長>

大学病院でも導入努力はしているが、実績は１０～１５％程度である。治験という大学病院の役割があり、なかなか比率が上がらないという事情はある。市立病院においても、一部そういう事情はあるのかもしれない。

<事務局>

海浜病院では、年間３０品目程度ずつジェネリック医薬品になってきており、なかでも高額のがん剤などはほとんど置き換わっている。引き続き導入に力を入れていく。

<委員長>

医師会でも、医療費削減の命題に応えるため、ジェネリック医薬品の導入や検査費用の削減などに取り組んでいるが、なかなか進んでいないのが現状である。

議題（４）「新千葉市立病院改革プラン」の進捗状況について

【質疑応答】

< 委 員 >

公的病院は政策医療を担うというミッションがあり、単に収支だけでとらえられない面もあると思う。新改革プランの収支計画は右肩上がりに作られているように見えるが、なかでもどの項目を重視しているのか。

< 事務局 >

新改革プランでは、中規模病院の採るべき道として専門特化路線をいくこととしており、青葉病院は救急や整形外科部門、海浜病院は周産期やがん診療部門に力を入れていく。

< 事務局 >

主な指標としては平均在院日数の短縮と新規入院患者数の増加を重視し、結果として病床利用率の上昇につながるものと考えている。

< 事務局 >

医業収支比率は、90%を目指していく。

< 事務局 >

市民に良い医療を提供するというのが最大の使命であると考えている。計画の数値は、その使命を果たすための様々な方策を考えた結果出てきたものであり、はじめから数値ありきで作成したものではないということをご理解いただきたい。

< 副委員長 >

政策医療を担う公的病院は営利を追求するものではない一方、野放図に赤字を垂れ流して良いわけでもない。その意味で、目標を達成しつつ繰入金を減らしていることは評価できる。

< 委員長 >

委員の指摘はもっともであり、収支だけを求めるのではなく、公的病院の役割を引き続き果たしてほしい。

< 委 員 >

両市立病院で診療科目の再編成等を行う時は、医師会とも情報の連携をとって行ってほしい。また、救急患者の受入数が増加するなどその努力は評価できるが、看護師などのマンパワーが確保できるかという心配もあるので、留意してほしい。

< 事務局 >

診療科目の再編成にあたっては、患者さんに迷惑をかけないように行っており、また医師会をはじめとした関係先にも十分に周知を行っている。周知不足な点があれば改善するので、具体的な事例があれば指摘してほしい。

< 事務局 >

青葉病院では、入院が必要な救急患者さんは断らないという方針であり、救急患者の受入数が増加している。マンパワーの確保については当然のご指摘であり、今後も努力していく。初期救急については診療所でみるという役割分担は引き続きお願いしたい。

<委員>

看護師不足の要因は、退職者が多いためか、採用数が足りないためか。

<事務局>

青葉病院では、退職者は年間30名弱、4月の新規採用者は25名程度であるが、今年度から随時採用の取り組みを始めるなど採用の取り組みを強化している。

また、30名程度が産休や育休を取得している状況である。産休・育休からの復帰者は夜勤ができないなどの制限があり、人繰りに苦労する面もあるが、そういう働き方も認めて、職場復帰者がやめなくても良い職場作りを進めている。

<副委員長>

青葉病院の看護師不足や海浜病院の一部診療科の医師不足など、マンパワーの不足の問題については、人材の供給源としての大学医学部も責任を果たしていかなければならない。

<委員長>

・看護師不足については、青葉看護学校の卒業生で市内に残る割合がさほど高くないという問題もあるのではないか。ぜひ市立病院への従事者が増えるよう取り組みを行ってほしい。

・高齢化の進展により、救急患者についても入院患者についても高齢者の割合が増加することが予想される。高齢者の入院は長引く傾向があり、場合によっては在院日数に影響することも考えられる。

議題（5）平成25年度病院事業予算要求の概要について

【質疑応答】特になし。

議題（6）その他

【質疑応答】特になし。

以上

問い合わせ先 千葉市病院局経営企画課

TEL 043-245-5744